寄贈品コーナー　2006年6月17日（土）～7 月30 日（日）まで

1945. 7. 16 平塚空襲展

1945 年（昭和 20）7 月 16 日深夜、平塚は B29 爆撃機 132 機による空襲を受け、罹災戸数は 7678 戸（神奈川県警調べ）、死者 330 名以上（博物館調べ）の被害を出しました。寄贈品コーナーではこの平塚空襲の実態を写真パネルや実物資料、証言集で紹介します。

展示室

おもいでのなつ

【主な展示品】

・空襲後の海軍火薬廠・平塚市内の写真パネル

終戦直後、米軍が撮影した平塚市内の写真

・空襲体験紙芝居「おもいでのなつ」

作者の渋谷千鶴子氏は当時、平塚第二国民学校（現港小学校）の教員でした。この紙芝居は作者の空襲体験を描いたものです。平塚 (二十四軒町) の自宅から桜ヶ丘方面へ避難しましたが、朝、自宅に戻ると家は焼失していました。

・永峰光さんを直撃した焼夷弾

永峰光さんは、学徒勤労動員として海軍火薬廠に入廠していた茨城県立麻生中学校 4 年生でした。空襲の夜、永峰さんは防空壕で足に焼夷弾の直撃を受け、ひざから下がねじれた状態になってしまい、早朝に亡くなりました。

・平塚第二国民学校「学校日誌」・斯波武綱「句日記」

平塚第二国民学校（現港小学校）は空襲で焼失しました。「学校日誌」は空襲翌日の 17 日から書き始められ当時の学校生活の様子をうかがう貴重な資料です。「句日記」は当時、平塚に住んでいた斯波武綱氏によるもので、趣味の俳句をまじえ、当時にありながら戦争や指導者に対する冷静な評価、批判がみられます。これらの資料は今年 3 月に発刊された平塚の空襲と戦災を記録する会編『市民が探る平塚空襲』資料編（三）に収載されています。